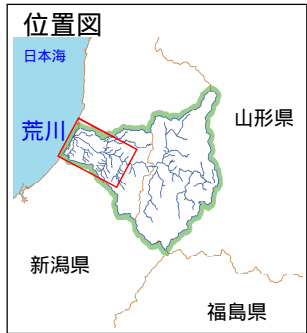


荒川水系流域治水プロジェクト【中間とりまとめ案】

中間とりまとめ
(案)協議会用

～ 荒川流域の浸水被害の軽減に向けた治水対策の推進～

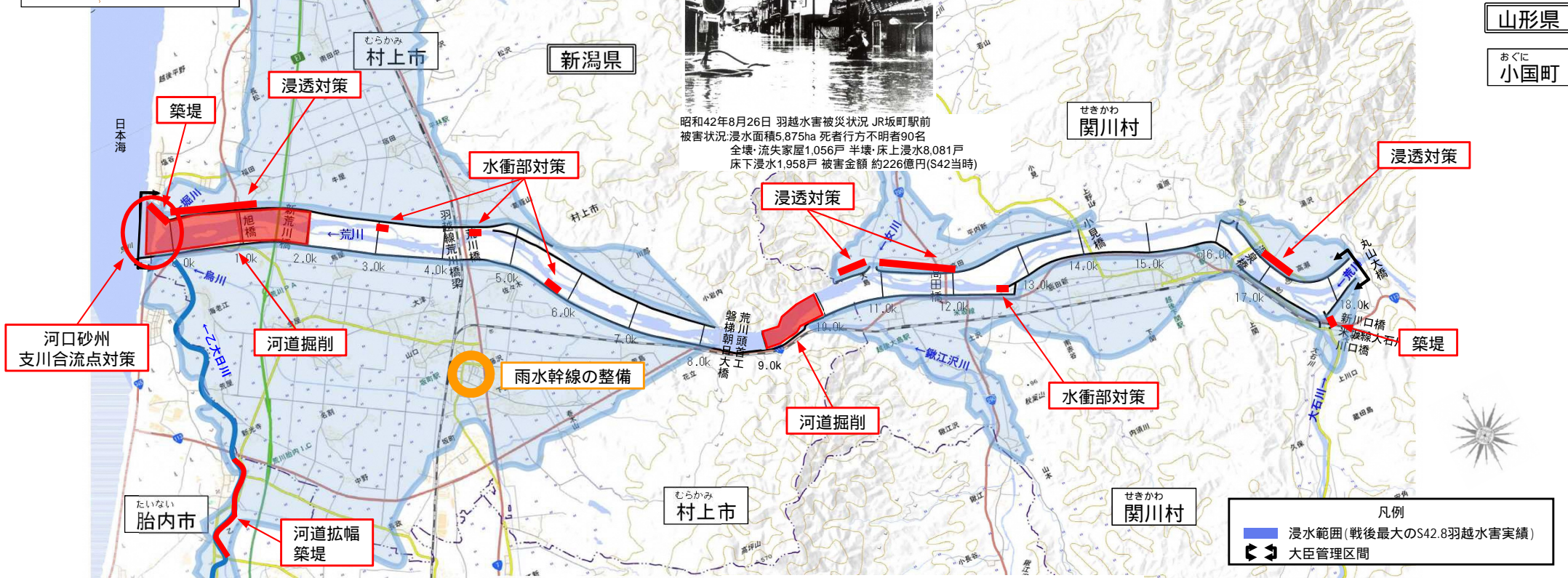
令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、荒川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、荒川の堤防が決壊し、流域で甚大な被害が発生した戦後最大の昭和42年羽越水害と同規模の洪水を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。



河川における対策
対策内容 河道拡幅、築堤、河道掘削、水衝部対策、浸透対策等

流域における対策
・公共下水道雨水幹線の整備
・利水ダム等5ダムにおける事前放流等の実施、体制構築(関係者:国、荒川水力電気(株)、赤芝水力発電(株)、東北電力(株))
・大規模水害を想定した排水計画
今後、関係機関と連携し対策検討

ソフト対策
・防災情報の充実(水位、気象情報、カメラ映像、ホットライン等)
・洪水ハザードマップの作成・周知
・小中学校における水害教育
・水防活動の効率化・強化に関する取組
・マイ・タイムラインの作成等
今後、関係機関と連携し対策検討



昭和42年8月26日 羽越水害被災状況 JR坂町駅前
被害状況:浸水面積5.875ha 死者行方不明者90名
全壊・流失家屋1,056戸 半壊・床上浸水8,081戸
床下浸水1,958戸 被害金額 約226億円(S42当時)

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。
本図の浸水範囲は、大臣管理区間における荒川本川の氾濫によって生じる範囲を示しており、支川等他区間の氾濫による浸水範囲は含まれていません。